

入学前教育の学習課題の分析

-レポートを書くための準備に必要な仮説形成力-

Analysis of learning task of college administration preparation study
- Assessment of hypothesis formation power necessary for preparation to write a paper -

宮下 伊吉, 渡邊 あや, 喜多 敏博, 鈴木 克明

Ikichi MIYASHITA, Aya WATANABE, Toshihiro KITA, Katsuaki SUZUKI

熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻

Graduate School of Instructional Systems, KUMAMOTO UNIVERSITY

〈あらまし〉 入学前教育におけるレポートを書くための準備に必要な学習スキルを明らかにするために、ガニエなどの先行研究のレビューにもとづき、学習課題の分析を行う。

〈キーワード〉 入学前教育, レポート作成, 学習スキル, 仮説形成力, 教材開発

1. はじめに

レポートを書けない学生が多い。そのため、大学が初年次教育・リメディアル教育で、レポートの書き方を教えるようになってきている⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾。そうした中で、入学前にレポートを課題として課す大学がある。そのため、推薦入試、AO入試で合格した高校生を対象とする入学前教育は、レポート作成についての知識がないまま行われているのが現状である⁽⁴⁾⁽⁵⁾⁽⁶⁾。

そこで、入学前教育において、レポートを書くための準備が必要ではないかという疑問をもち、レポートを書く前に学生が身につけておくべき学習スキルとは何かという問いを立てた。本研究では、レポートを書くための準備に必要な学習スキルは、「仮説形成力」であると考え、ガニエの理論やレポート作成に関する先行研究などを用いて、レポートを作成するために必要なスキルを抽出し、仮説形成力に至るプロセスを明らかにしていく。

2. 先行研究

レポートを作成するために必要なスキルを抽出するためには、まず、対象となる学習者が高校生であり、はじめてレポートを書くことに留意しなければならない。高校生は、問題と解答が必ず与えられる受験勉強は経験しているが、問題を自分で見つける学習や、正解がない問題に取り組む学習の仕方は学んでいない。また、大学や社会で求められるレポートがどのようなものか知っているわけではない。さらに、レポートなどで「自分の考えを主張する技術」は、学校ではほとんど教えられていない⁽⁷⁾。つまり、本人のスキル不足ではなく、レポートを書くために必要なスキルを身につける機会がなかったといえる。

そのような学生を実際に受け入れて、レポートを書くための授業を行っている大学の事例をも

とに、どのような学習スキルがレポート作成に求められているかを調べた。

最初の事例は、福岡⁽⁸⁾の日本語表現教育を行う基礎演習である。この授業では、アカデミック・ライティング教材として『ピアで学ぶ大学生の日本語表現-プロセス重視のレポート作成-』（大島・他・2005）という教材を使用している⁽⁸⁾。この教材は、レポート作成をはじめて体験する大学生を対象に、情報をもとに論証型のレポートを作成することを目的としたワークブックであり、学習者同士のピア・レスポンスの活動を体験できるように設計されている点が特徴である。その教材の内容から、レポート作成に必要なスキルは、「構想を練る」、「集めた情報から問いと答えの構成表を作る」、「目標規定文を作る」、「アウトラインを組み立てる」とまとめることができる。

次の事例は、米澤⁽⁹⁾のeラーニングによる図書館を中心としたレポート作成授業である。米澤は、自立的に問題解決を行う図書館中心の学習には、膨大な情報の中から自主的に情報を選択する学習能力を獲得させるという潜在的価値があるとしている。そして、良いレポート作成の必要なスキルとして、調査力・構成力・文章力をあげている。

さらに次の事例である豊田・奥村⁽¹⁰⁾の入学後のレポート作成支援プログラムは、レポート作成の手順を示した教材とワークシートと、教員による添削を取り入れた自習形式のレポート作成支援プログラムである。その中で、文章作成能力を向上させるための仮説として、7つの問題点を整理し、5つのレポート作成手順（①テーマを理解する②情報の収集と整理を行う③レポートの構成を考える④レポート本文を作成する⑤推敲を行う）をあげている。この手順は学生向けにレポート完成までの基本ステップとして提示されていて、そのままレポートを書くために必要なスキル

となっている(STEP1: テーマをよく理解する～何を書くべきか、答えるべきポイントは何か～、STEP2: 情報を集める、STEP3: 内容を整理する～どうすれば読み手によく伝わるか～、STEP4: 実際に文章を書く～パラグラフで「読みやすく説得力のある文章」を書く、STEP5: 書いたものを見直す⁽¹⁰⁾)。

以上の3つの事例より、レポート作成には、自分で問題(問い)を見つけ、その解決策(答え)を考え、調べたことをもとに自分の考えが相手に伝わるようにまとめることが必要である。その中でも核となる重要なスキルは、自ら問題を見つけ解決策を考えるスキルである。

3. 理論的根拠

次に、レポートを作成するために必要なスキルについて、ガニエの学習成果の5分類から分析を行う。

ID (インストラクショナル・デザイン) 理論の生みの親として著名なガニエは、学習成果の到達度の測定方法が異なるだけでなく、到達を支援する最善の方法が異なるというIDの観点から学習目標の性質にもとづいて、学習成果を言語情報、知的技能、認知的方略、運動技能、態度の5つに分類している。そのうち、言語情報は与えられた情報を再び記述する力(宣言的知識)の習得、知的技能は約束事を学びそれを未知の例に適用する力(手続き的知識)の習得、認知的方略は自分の学習過程をより効果的にするための力(学習技能)の習得を指しており、これら三つは認知領域の学習成果としている⁽¹¹⁾。

レポートを書くために必要なスキルは、この認知領域の学習成果にあたる。レポートを書く上で必要な形式や情報収集などのルールを覚えることは言語情報にあたり、文章力はこのルールを知っているかどうかによって左右される。また、覚えた形式・ルールにもとづいて文章を書くことや収集すべき情報を集めることは知的技能にあたる。そして、集めた情報にもとづいて自分の考えを論理的にまとめることは認知的方略にあたる。ガニエによれば、学習者は認知的方略によって、いかにスムーズに思考するかなどが決定するとしている⁽¹²⁾。したがって、自ら問題を見つけ解決策を考えることは、認知的方略にあたり、レポート作成に必要な重要なスキルといえる。

「自ら問題を見つけ解決策を考える」ためには、多様な視点から仮説＝結論をいくつもイメージできる力(イメージ思考)と、その仮説を検証するための論点を整理できる力(ロジカル思考)が統合されることが必要である⁽¹³⁾⁽¹⁴⁾。したがって、レポートを書くために必要なスキルを身につけるには、①仮説を作り出すことと、②仮説を検証すること、つまり仮説形成力を高めることが大切であると考えられる⁽¹⁵⁾。

4. 今後の研究の方向性

以上より、レポートを書くための準備に必要な学習スキルは、「仮説形成力」であると考えられる。

今後は、仮説の検証が課題である。そこで、レポートを作成する入学前教育の実施大学にご協力をお願いし、学習課題の調査・分析をWeb(moodle)上で行う予定である。さらに今後の発展的課題として、レポートを書くための準備に必要な学習スキル(仮説形成力)を身につけるトレーニング教材の開発をめざしていきたい。

参考文献

- (1) 小野博ほか: "日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育", メディア教育開発センター, 東京, pp 1-6 (2005)
- (2) 川島啓二: "初年次教育の諸領域とその広がり", 初年次教育学会第1巻第1号, pp 26-32 (2008)
- (3) 福岡寿美子: "リメディアル教育としての基礎演習における日本語表現—アカデミック・ジャパニーズの観点を中心に—", 流通科学大学教育高度化推進センター紀要 第3号, pp23-33, (2006)
- (4) Between219号: "つなぐ高校 大学「入学前教育は効果を上げ大学を評価する要因になっているか」", 進研アド, 大阪, pp.61-63 (2006)
- (5) 向後千春, 伊豆原久美子ほか: "eラーニングによる大学入学前教育「文章表現」の設計・実践とその評価", 日本教育工学会研究報告集, (2006)
- (6) 濱名篤: "日本の初年次教育の課題—学士教育課程・入学前教育との関係—", 初年次教育学会第1巻第1号, pp 57-64 (2008)
- (7) 大庭コテイさち子: "考える・まとめる・表現するアメリカ式「主張の技術」", NTT出版, (2009)
- (8) 大島弥生・池田玲子ほか: "ピアで学ぶ大学生の日本語表現—プロセス重視のレポート作成—", ひつじ書房, (2005)
- (9) 米澤誠: "eラーニングでのレポート作成授業の実践と成果評価", 東北大学高等教育開発推進センター紀要 (2), pp237-243, (2007)
- (10) 豊田雄彦・奥村憲: "レポート作成支援プログラムの開発とレビュー", 自由が丘産能短期大学紀要 39, pp95-110, (2006)
- (11) 鈴木克明(編著): "詳説インストラクショナルデザイン: eラーニングファンダメンタル (パッケージ版テキスト)", 特定非営利活動法人日本イーラーニングコンソシアム, 東京(2004)
- (12) ガニエ, ウェイジャー, ゴラス, ケラー (著), 鈴木克, 岩崎信 (監訳): "インストラクショナルデザインの原理", 北大路書房, 京都 (2007)
- (13) 河瀬誠: "問題解決のレシピ", 日本能率協会マネジメントセンター, (2008)
- (14) 神田昌典: "全脳思考—結果と行動を生み出す1枚のチャート—", ダイアモンド社, p391(2009)
- (15) バーバラ・ミント: "考える技術・書く技術—問題解決力を伸ばすピラミッド原則—", ダイアモンド社, (1999)